

2023 FIE 国際審判員試験受験報告

1.期 間 2023年10月3日～10月6日

2.場 所 カザフスタン共和国アルマトイ市 (U 23 アジア選手権大会)

3.受験者 櫛橋茉由 (サーブル、エペ)、成田武永 (サーブル、エペ)、佐藤秀明 (フルーレ)

4.試験の概要

1) 試験官 FIE 審判委員会のメンバー4名が試験官であった。

Knysch Irina(President of Refereeing Commission)、Kim chang gon
Cojocari Olga、SHAMIS Vladislav

2) 日 程 10月3日 サーブル筆記試験・ビデオ審判試験

10月4日 サーブル実地試験、エペ筆記試験・ビデオ審判試験

10月5日 エペ実地試験、フルーレ筆記試験・ビデオ審判試験

10月6日 フルーレ実地試験

3) 試験形式 ※3種目共通

各試験に合格することで、次に進むことができた。

①筆記試験 15問出題 (一般共通問題 10問、種目専門問題 5問)

②ビデオ審判試験 10問程度 (トゥッシュの判定、違反と罰則適用)

③実地試験 プール戦において審判業務

5.試験の詳細

1) 筆記試験

試合規則(競技規則、用具規定、組織規定)から出題され、ルールの理解と適切に運用する力が求められる。解答は3つの答えから正しいものを選択し、2問不正解で不合格となる。今回は列ごとに異なる問題が配られた。試験時間は30分間(解答が終わり次第提出)であった。合格者は次の試験に進む。

出題範囲を絞ることはできず、全てのルールを頭に入れ、かつ提示された文章(シュチュエーション等)を正確にイメージできなければ正答することは困難である。当たり前であるが英文で出題されるため、日頃から英語のルールブックを併用して理解しておく必要がある。

2) ビデオ審判試験

試験会場に準備された大画面モニターに映し出された試合映像(WC,GP等)を見て、トゥッシュの判定、違反と罰則適用を行うことが求められた。試験は10問程度であるが、判定及び違反・罰則適用において数回(3回程度)間違いがあった場合は不合格となる。間違いは特に指摘されず、試験結果は全ての受験者が試験を終了した後に知らされる。合格者は次の試験に進む。

サーブルは主としてフレーズの判定であった。エペは主として違反と罰則の適用であった。フルーレは主としてフレーズの判定及び違反と罰則の適用であった。種目ごとに求められている内容が異なるため、

公開されている試合映像 (youtube 等) を利用して、審判眼を鍛えることが必要である。また、試験官を背にして審判 (判定) をしていくため、かなりの緊張感の中受験することもあり、その中で正確な判断をする心理的強さも求められる。

3) 実地試験

今回は、U23 アジア選手権の男子 3 種目の日程に合わせて実施された。試験対象はプール戦であった。ビデオ審判試験に合格した受験生は数名で 1 グループになり各プールに配置され、試合運営 (用具確認、試合等) を行った。FIE 試験官と当該大会審判員 (今回は、トップレベルの審判員) が評価を行っていた。判定や違反・罰則に間違いがあった場合は、即座に修正される。またそれが評価にも大きく影響するようであった。

実際の大会で実施される試験であるため、当然アクシデントも発生することが多くあった。受験生ごとに全く異なるシチュエーションになるため、試合管理、ハンドシグナル、声量 (選手に正確に伝わるように) 等、国内大会において当たり前に行っている審判業務ではあるが、合格するためには改めて自身の審判業務を確認することが求められる。また、できるだけ多くの実践機会を持つことが必要である。

6. 試験結果

櫛橋茉由 (サーブル、エペ)	合格 (サーブル 15 名/25 名、エペ 7 名/25 名)
成田武永 (サーブル)	合格 (サーブル 15 名/25 名)
佐藤秀明 (フルーレ)	合格 (22 名/25 名)

7. 所感

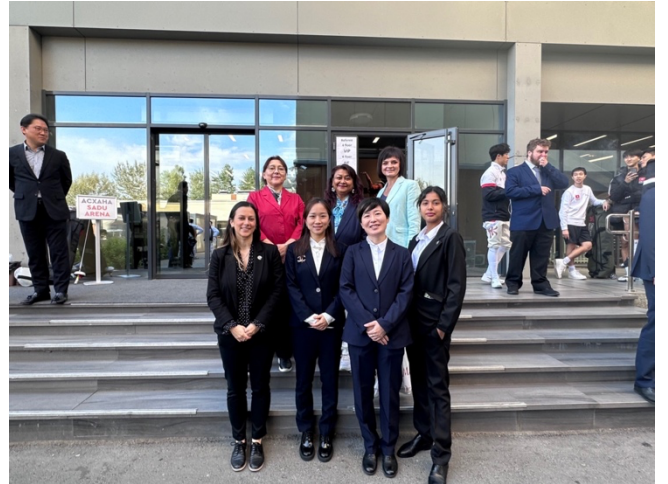
FIE 審判試験は FIE 審判員に求められる各種スキルがあるということが前提です。従前では、アジア連盟 (以下 FCA) の審判ライセンス (国際ライセンス C) 取得者が FIE 審判試験を受験できるという順序があり、否応なく受験に向けての助走機会がありました。しかし、今シーズンから直接 FIE 審判試験の受験になったため FCA は事前に候補者対象の種目別セミナーを開催し、その受講を必須としました。セミナーでは、審判員の心得、求められる技能、FIE 審判試験に合格するために必要な学び等、多くの情報を得る機会がありました。いずれの種目も 4~5 時間の長時間に渡るものでしたが、合格するためにはそれだけでは到底不十分でした。今回受験した一人は、可能な限り情報を集め、時には海を渡り実践の機会を持ち自己の研鑽に励みました。また、与えられた時間の中で国内大会の審判業務に参加し自己の研鑽に励んだ者もいます。日本から FIE 審判試験を受験する者は「限られた枠」の中で決められています。そのため、受験希望者が多くいる中で得たチャンスは嬉しい一方で、非常に重いものでもありました。受験できなかった審判員のためにも、絶対に合格しなければならないという強い意志で取り組んできました。その取り組みの中で、「審判員は皆家族である」ということを強く感じました。国内・海外問わず、受験する我々への助言や時には励ましの声など、本当に多くの支えがありました。この支えの中で、今回全員無事に合格することができ、改めて関係の皆様には心から感謝の意を表します。

今回特に感じたのは、女性の受験者が多いことです。今後益々、女性審判員の活躍の場が広がっていき、人材育成が各国に要請されるため、それに向けた取り組みも併せて進めていく必要性を感じました。

最後に、我々が受験を通じて得たこと、そして将来得るものを、一つでも多く仲間たちに伝えていくことを誓い、2023FIE 審判試験受験の報告とします。



サーブル種目合格者



エペ種目合格者（撮影は女性のみ）



フルーレ種目合格者

